

2014年9月19日
NPO 法人知的資源イニシアティブ

関係各位

Library of the Year 2014 優秀賞の決定および最終選考について

「Library of the Year(ライブラリー・オブ・ザ・イヤー、LoY)大賞・優秀賞」は、これからの日本の公共図書館のあり方を示唆する、先進的な活動を行っている機関(図書館に限らない)に対して、NPO 法人知的資源イニシアティブ(IRI)が2006年より毎年授与する賞です。

9回目となる2014年は、IRIメンバーおよび外部推薦で寄せられた32施設・団体・サービスの中から、下記の4機関が優秀賞に選ばれ、大賞の最終選考対象となりました。

●海士町中央図書館

隠岐の離島という地理的ハンディのある過疎の町において、移住者を中心に公民館図書室の設置、図書館の新設と、島民みんなでつくる新たな形の図書館整備を進めている。「島まるごと図書館構想」は、地域内での分散型図書館サービスの先駆例でもある。また、2013年には、クラウドファンディングを利用し、図書館として日本で初めて成功した。過疎の町村の図書館振興＝まちづくり振興のモデルとして、学ぶところが大きい。

<http://lib.town.ama.shimane.jp/>

●京都府立総合資料館

かねてからMLA連携の実践館として各種デジタルアーカイブの構築を進めているが、3月に公開した「東寺百合文書WEB」は、資料価値もさることながら、収録データをCCライセンスに準拠する「オープンデータ」とし、いわゆる「OpenGLAM」の格好の事例となっている。誰もが自由に利用できると明示して提供したこの姿勢は、MLA機関の指針となっている点を高く評価したい。

<http://hyakugo.kyoto.jp/>

●福井県鯖江市図書館「文化の館」

図書館友の会実行委員が自主的に運営する「さばえライブラリーカフェ」は、100回以上の定期開催の実績を誇る。テーマも高度であり、「市民がつくる図書館」としての面目躍如といえる。他にも、学校図書館支援や地場産業支援の取組、県内初のクラウド型図書館情報システムの導入、鯖江市のオープンデータ政策との連携、女子高生による企画会議の開催等、運営・事業面で話題性と先駆性の高い図書館である。

<http://www.city.sabae.fukui.jp>

●NPO 法人情報ステーション「民間図書館」(千葉県)

千葉県船橋市を中心に、商店街の空店舗やマンションの一室等を活用し、地域密着型の小規模図書館を運営。民間資金を調達し、図書は寄贈を募り、窓口はボランティアで賄っている。住民同士の交流の場を創出し、地域活性化に寄与。都市型民間図書館の経営モデルとして普及性が高い。

<http://www.infosta.org/library/>

<最終選考について>

2014年11月7日(金)午後1時00分～午後2時30分、パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)にて、今回決定した優秀賞4機関を対象として、一般公開の最終選考会を開催いたします。最終選考会では、各機関についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを経て、審査員7名(選考会一般参加者票1票、ファンディング支援者票1票※を含む)の投票によって大賞を決定します。併せて、大賞機関および優秀賞機関の表彰式を行います。

この最終選考会は、パシフィコ横浜などで開催される第16回図書館総合展(2014年11月2日～11月8日)の一環として行われます。

※Library of the Year 2014 実施に必要な資金は、クラウドファンディング (readyfor!?)により調達しています。詳細は調達サイトをご覧ください。

<https://readyfor.jp/projects/loy2014>

<Library of the Year について>

「Library of the Year」は、IRIの選考を担当する委員会(委員長:昭和女子大学特任教授 大串夏身)が中心となり、図書館など全国の知的情報資源に関わる機関を対象として授与する賞で、2006年に始まりました。

選考基準は、以下のとおりです。全国の公共図書館を総合的に評価して、ベストの図書館を決めるものではありません。

- ①今後の公共図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行なっている。
- ②公立図書館に限らず、公開された図書館的活動をしている機関、団体、活動を対象とする。
- ③最近の1～3年間程度の活動を評価対象期間とする。

過去の授賞機関は以下のとおりです(詳しくはIRIホームページ内“Library of the Year”をご覧ください <http://www.iri-net.org/loy/>)。

第1回の“Library of the Year 2006”の大賞は、鳥取県立図書館が受賞しました。県全域を対象として、学校、企業、公的機関など様々な県内の機関と連携しながら、地域に関わって活動することにより、地域の役に立つ図書館をめざす、というこれからの図書館のあり方を示した点が評価されました。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=46587>

第2回の“Library of the Year 2007”の大賞は、愛荘町立愛知川図書館が受賞しました。図書館員がそれぞれの専門分野を持ち、町づくりに積極的に関わっている点が評価されました。

http://www.town.aisho.shiga.jp/pdf/koho/0801/ais_pr080112.pdf

第3回の“Library of the Year 2008”の大賞は、千代田区立千代田図書館が受賞しました。都心型図書館の新しいモデルとなることを意識し、図書館コンシェルジュ、古書店と連携した展示・販売仲介、電子図書貸出サービスなど数多くの新規サービスを展開し、地域の様々な機関との連携を進めたことが評価されました。

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/koho/pressrelease/h20/h2011/h201127-02.html>

第4回の“Library of the Year 2009”の大賞は、大阪市立中央図書館が受賞しました。HP が四ヶ国語で作られるなど「開かれた図書館」を実践している点、データベースの数が多く利用が簡単であるなど、図書館でのデータベース利用のモデルを示している点が評価されました。

<http://www.oml.city.osaka.jp/topics/jushou-loy.html>

第5回の“Library of the Year 2010”の大賞は、カーリルが受賞しました。全国5,000館を超える図書館・図書室蔵書の横断検索サービスとして、従来の図書館系のサイトWeb サービスを凌駕している点、図書館界に留まらず大きな話題となった点が評価されました。

http://blog.calil.jp/2010/11/library-of-year-2010_29.html

第6回の“Library of the Year 2011”の大賞は、小布施町立図書館が受賞しました。「交流と創造を楽しむ文化の拠点」として、各種イベントの実施や地元の方100人のインタビューの電子書籍化を行うなど、小布施文化や地域活性化の拠点としての活動を進めている点が今後の地域の公共図書館の在り方の参考となる点が評価されました。

<http://www.machitoshoterrasow.com/loy2011.html>

第7回の“Library of the Year 2012”の大賞は、ビブリオバトルが受賞しました。「人を通じて本を知る／本を通じて人を知る」というコンセプトを掲げた知的書評合戦とし

て、全国大会が行われるほどの盛り上がりを見せており、継続的に行われていること、各地で開催されていることなども評価されました。

<http://www.bibliobattle.jp/whatsnew/libraryoftheyear2012dashangshoushangnogobaogao>

第8回の“Library of the Year 2013”の大賞は、伊那市立図書館が受賞しました。iPad/iPhone アプリケーション「高遠ぶらり」を活用した「街中探索ワークショップ」や、地域通貨「りぶら」の活用など、図書館というハコや仕組みの枠を超えた新鮮な提案とその推進により、新しい公共空間としての地域図書館の可能性を拓いている点が評価されました。

<http://www.city.ina.nagano.jp/view.rbz?nd=500&of=1&ik=1&pnp=500&cd=14510>

《過去の受賞機関のコメント》

【鳥取県立図書館:LoY2006 大賞授賞】

第一回の *Library of the year* の受賞は、住民の皆さんに鳥取県立図書館の活動に目を向けていただく最高の機会になりました。正直、第一回ということでの程度喜んでいいのか戸惑ったことを思い出しますが、地域の有志の皆様が、「鳥取県立図書館の *Library of the year* を祝う会」を開催してくださったことを忘れません。今でもこの受賞の名に恥じないように図書館活動を継続していかなければと考えています。

【アカデミーヒルズ六本木ライブラリー:LoY2006 優秀賞授賞】

民間で運営する有料会員制図書館を、図書館として初期に認めて頂けたことは、LoYの先進性を示すものであり、私どもにとりまして大変励みになりました。その後各地に様々な形の私設図書館ができるようになったのも、LoYで広めて頂いたことによるものだと思います。

※LoY2011でも、「森ビルによるライブラリー事業」として優秀賞授賞。

【農林水産研究情報総合センター:LoY2006 優秀賞授賞】

Library of the Year 2006 にて優秀賞を頂いたことは、当センターの活動が農林水産分野の研究者だけでなく、一般にも評価されていることを実感する貴重な機会となりました。受賞は職員の励みとなったほか、これをきっかけに研究者だけでなく一般の利用者へのサービス提供についても、あらためて意識するようになりました。

【奈良県立図書情報館:LoY2009 優秀賞授賞】

唐突に受賞の連絡を受けて、どんな賞なのか、慌ててネットで検索したことを思い出した。昨今は、「受賞を目指しています！」と公言する方もちらほら。それだけ認知度も上がってきているということだろうか。ところで、我々にとっては、受賞云々よりも、我々の試みを、どこかで見ていてくれる人がいることを改めて実感し、カブ

けられる機会であったと、今、思うのである。

【小布施町立図書館(館長(当時)・花井裕一郎氏):LoY2011 大賞授賞】

あの瞬間。ドキドキ感。そして発表された時の飛び上がらんばかりの嬉しさ！
おかげで、町民のみなさんを始め、ご利用になるお客様に笑顔がたくさん生まれました。僕自身は、執筆のきっかけをいただきました。仕事から多くの図書館を訪ねますが、LoYを目指したいとおしゃる図書館にもたくさん出会っています。

【saveMLAK:LoY2012 優秀賞授賞】

saveMLAK の活動は多数のボランティア有志による活動であり、受賞はこのような草の根の活動を認めていただき、大変うれしく思いました。3.11 からは 3 年半が経ちましたが、震災の記憶と記録を残すことはますます重要になってきています。saveMLAK コミュニティの皆さんとともに、復興支援、さらに次の震災に備えるための活動を続けていけたらと思います。

【伊那市立図書館:LoY2013 大賞授賞】

LoY2013 を受賞してまちの人々が喜び、各地の人々と共感し、つながることで一層深まった問いかけは、「図書館的な」活動ってなに？ということ。情報基盤社会へと向かいつづける今だからこそ、多様で豊かな「知る」「知を共有する」をめぐる営みを再創造したい。図書館はつねにムーヴメントです。

■お問い合わせ先 NPO 法人知的資源イニシアティブ事務局 info@iri-net.org
<http://www.iri-net.org/loy/>